

## 自然豊かな高島で子育てをしたいとリターン。 高島市の魅力を発信する仕事へ

### 学習塾で見つめなおした 自身の将来像

高校卒業後の進路を教えてください。

高校時代に海外に興味を持ち、京都の大学へ進学し、国際文化学科で英語を専攻しました。卒業後、高島市内で一度就職しましたが、外でチャレンジしたいという思いがあり、半年後に京都の学習塾に就職しました。

高島に戻ってくるようになったきっかけは？

学習塾は子どもの教育に関心があり選んだ仕事でした。子どもたちの指導は楽しく、やりがいを感じましたが、親御さんからの相談などにも対応する中で、さまざまな家庭の事情や都会の子どもたちの環境を知り、自身の将来像を考えるようになり

ました。学習塾は午後から夜の仕事で体力的にも厳しいものがあります。独身で働き続けるか結婚して子育てをするか、都市に住むか田舎に住むか、と選択肢を挙げていく中で、自分が育った自然豊かな高島で結婚し、子どもを育てたいと思いました。

### 6町村をつなぎ、 高島市全体として魅力を発信

高島に戻ることを決められた後のことを聞かせてください。

ハローワークで事務系の求人の中から県事務所の募集を見つけ1年ほど働きました。この時の人の繋がりが高島地域観光振興協議会を紹介してもらい、高島郡民向けのコミュニティ誌「もりっこ通信」発行の専属職員として働きだしたんです。年4回発行のA3両面4ページの紙面ですが、高島郡6町村を巡り、文字通り東奔西走の毎日、高島郡全域のいい所や特産品、歴史、各地域で活動する団体などを取材しました。ボランティアのライターさん、カメラの得意な方など5人でチームを組み、まだあまり知られていない情報を集め、県内にも発信しました。取材を通じて、活動しているのは高齢の方が多いという地域の実状を肌で感じた貴重な経験となりました。

合併後、びわ湖高島観光協会となったとき、仕事内容に変化はありましたか？

高島市の合併後、6町村の観光協会も合併しました。私は引き続き情報発信の担当として、市外へ向けて情報を発信することになりました。「地域情報誌」から「観光情報誌」を作成することは、ターゲットが市民から高島市外の観光客へと変わり、外に向けての視点が変わります。旧6町村を一大観光エリアと捉え、「歴史ゾーン」や「自然ゾーン」など特徴を整理し、「高島市」という一つの大きな括りとして外にPRすることには大変苦労しました。

やりがいや難しさはどういったことがありますか？

市民ですら知らない地域資源を発見・発



掘できるのは楽しいですね。この「地域資源」を「観光資源」にしていくためにはハードルもあります。「観光資源」としてPRしていく際には、ニーズに合わせて分析・分類する必要があります。そして何よりも地元が受け入れられる観光スタイルに合わせることに気を遣います。地域資源の維持管理に地元の力は欠かせません。一方、観光客が来ることで地元が憔悴してしまっただけでは本末転倒です。何を「観光資源」にするかを選択し、その地域に適した方法を考案する。難しくもあり、だからこそやりがいもあります。

### 常に新しく。行動し実現へ！

観光分野での仕事をを目指す若い人にメッセージをお願いします。

外を見て、内をコーディネートする仕事です。一度地域から離れ、外を見てきた人、地域らしさを感じられる人にこそ携わってほしいです。地域への想いが強い人にとって、やりがいのある仕事だと思います。

いい意味で安定せず、常に新しいことをする分野でもあります。時代の流れも見ながら5年後10年後を見据えて取り組まなければなりません。組織としても個人としても将来像を持つことが大切だと思います。「観光のプロ」として地域に必要とされる人を目指してください。

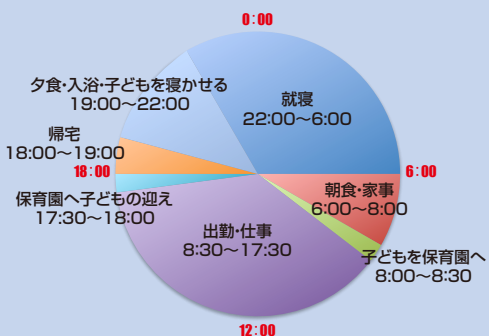


### DATA

#### ●プロフィール&高島らしさとは？

1979年、高島市生まれ。2005年、高島地域観光振興協議会へ。現在、2児の母。高島は自然環境が豊かで、地域のコミュニティもあり、子育ての相談もできます。少々不便があっても、子育てにいい地だと思います。

#### ●1日のタイムスケジュール



### 公益社団法人びわ湖高島観光協会

〒520-1501 高島市新旭町旭1丁目10-1 高島市観光物産プラザ1階

TEL : 0740-33-7101 FAX : 0740-33-7105 HP : <http://www.takashima-kanko.jp/>